

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

*上段は前期比在庫増減、中段〔 〕は在庫水準、下段（ ）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る）
点線内は全鉄連による予想数字（ ）内は誤差率＝予想値÷実績

令和7年2月末	令和7年5月末	令和7年8月見通し	令和7年11月見通し
－22千トン 〔1956千トン〕 (98.9%)	±0トン 〔1956千トン〕 (100.0%)	－18千トン 〔1938千トン〕 (99.1%)	＋12千トン 〔1950千トン〕 (100.6%)
1990千トン (101.7)	1980千トン (101.2)	*	*

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

令和7年3月末	令和7年6月末	令和7年9月見通し	令和7年12月見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は136,000円。前期比-2,000円。年明けから低調な商いが継続。発注を抑え在庫調整しているも、需要の少なさから過剰気味感が感じられた。前年より若干少ない需要環境で年度末の駆込み需要もなかった。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は134,900円。前期比-1,100円。5月GW以降、更に荷動きも悪く6月もその動きを引きずった。在庫量は横ばいだが、建築需要の乏しさから流通間の受注競争に伴う安値や安価な輸入材の影響で市況は弱含み、在庫の過剰感も感じられる。	流通は仕入を抑え余分な在庫を持たない姿勢。人手不足、残業規制等の影響で工事が進まないことと猛暑などの天候により更に工事の遅れが生じている。中小建築物の低迷が慢性化しており、回復の目途がたたない。物件が出ると受注競争で価格は弱含み、流通の収益を圧迫している。建産機など製造業関連も減産予想で低迷が続くだろう。	人手不足、働き方改革、資材高騰、トランプ関税等の影響により秋口の需要増は期待できない。競合も多くなり、市況はギリ安傾向。某電炉メーカーの値下げ発表で買い手の下げ圧力が強まり、市況の軟化基調が加速するとみられる。鉄鋼流通加工業界は年末に向け、不安要素ばかりで、更に厳しい状況になる見通しである。

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

8月仕入量は116,855トン前月比-17.3%、前年同月比-6.9%、販売量は122,526トン前月比-18.0%、前年同月比-6.4%。仕入量、販売量ともに前月比著減、前年同月比減となりました。在庫量は189,745トン前月比-2.9%、前年同月比-14.2%、在庫量は前月比減少、前年同月比は著減しました。在庫率は154.9ポイントと上昇しました。8月に入っても荷動きは低迷を続けており、酷暑や盆休みによる稼働日数減の影響で販売量は前月比著減、前年同月比減となっています。

4. 大阪

7月～9月の販売量、8月は特に稼働日が少ないこともあり7月対比は落ち込んだ。その反動もあり9月は回復見込みだが、建築関係を含め全般的に需要感は横這い。また、その他の品種も全般的に需要感は低調。

自動車メーカー各社は概ね生産は回復してきており、生産水準を上げてきているメーカーもあるが、メーカーによっては未だ苦戦しているところもあり、濃淡がある。今後の見通しは、建築・土木ともに低位横這い。秋の需要期でもあり、季節的にも仕事の効率が上がる時期で荷動きに期待したい。建築関係で、一部足元の見積もりが少し増えてきたとの声もあり、悪いながらも7～9月より増加予想。自動車関連も米国の関税動向次第では、対米輸出数量は落ちる可能性が高く、引き続き注視する必要がある。